

Title	東京電力における技術革新と人的資源に関する一考察-火力部門のオペレータを中心として-
Sub Title	
Author	青柳和治(Aoyagi, Kazuharu) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第249号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0249

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 青柳和治 主査 石田英夫
(東京電力株式会社) 副査 奥村昭博
所属ゼミナール 石田英夫 研 田中 滋

東京電力における技術革新と人的資源に関する一考察 —火力部門のオペレータを中心として—

本研究のテーマは、企業における将来の技術革新を中心とした経営環境の変化が人的資源に及ぼす影響を推測し、その対策を考察することである。

近年のエレクトロニクスの急速な進歩は、自動制御システムを飛躍的に向上させ、また今後一層の向上が予想される。それゆえ企業は先見的にその影響を把えて人的資源政策を展開すべきであろう。

本研究では、長期の電源設備計画などの社内資料や技術動向を示した公刊文献により、東京電力の火力部門のオペレータを対象として、人的資源の需要や職務内容の変化を推測した。

その結果、今後火力のオペレータ急速な需給アンバランスや高令化が生じること、ならびに技術革新によって中央操作室の少人数化が進むこと、処理すべき情報量の増加、異常時に要求される知識・技能の高度化、通常の運転操作の単純化、高度な知識技能の発揮機会の減少の五つの変化が生ずることが明らかになった。技術革新による上記の五つの変化がシステムの信頼性、オペレータの能力および心理に及ぼす影響を考察し、職場集団のチェック機能の低下、能力開発における習熟機会の減少、職務満足度の低下という問題が提起された。

上記の問題提起に関して、人的資源政策面の解決策を検討し、配置転換、中高年令者の処遇や勤務体制ならびにオペレータの最少人員、教育・訓練体制、職務拡充について新たな提言を行った。

本研究を通じて、今後の急速な技術革新によって発生する問題は多いが、適切な人的資源政策によって解決できるとの見通しが得られた。